

# 年頭にあたって

北海道保健福祉部長 白川 賢一



新年明けましておめでとうございます。

北海道医師会の皆様には、日頃から、本道の保健医療福祉行政の推進に当たり、深いご理解と温かいご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所の重大事故がわが国の経済社会全体に大きな影響を及ぼすなど、かつてない難しい課題に直面した一年でありました。

道内におきましても、景気の低迷や大震災の爪痕が道民の暮らしや経済に深刻な影響をもたらす中、道民の皆様が安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向け、地域との協働の下、より良い保健・医療・福祉サービスの提供に努めてまいりました。

さて、人口減少や少子・高齢化が全国を上回る早さで進む中、本道の保健・医療・福祉を取り巻く環境は著しく変化している状況にあり、道では、「安全・安心の健康社会づくり」に向けて、医師確保など「地域医療提供体制の充実」や「『支え合い』の地域システムづくり」「子育てや学びの環境づくり」などを政策展開の重要な柱とし、さまざまな施策に取り組んでいます。

特に、地域医療提供体制の充実については、平成22年に策定した「地域医療再生計画」に基づき、地域医療を担う医師の養成・確保を図るため、地域の中核的病院に安定的に指導医を派遣するシステムや、急性期から在宅復帰に至るまでの切れ目のない医療サービスを提供するための地域連携クリティカルパスシステムの構築を進めているほか、昨年11月に策定した「新たな地域医療再生計画」に基づいた医師や看護職員の確保対策をはじめ、高度・専門医療機関や救命救急センターの機能強化など、地域の実情に即した医療提供体制の充実に努めております。

また、本道の死因の第1位である「がん」の対策におきましては、「北海道がん対策推進計画」に基づきさまざまな取り組みを進めているところですが、本年は、道内のどこに住んでいても適切ながん治療

を受けることができる体制づくりなど、実効あるがん対策の推進に向けて「北海道がん対策推進条例(仮称)」の制定を目指しているところです。

今後におきましても、本道の保健医療福祉政策を推進する上での基本的な指針である「新・北海道保健医療福祉計画」に基づき、「安心して心豊かに暮らすことのできる地域社会の実現」を目指し、各種施策を通じて、保健、福祉、医療の推進に努めてまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が皆様にとって幸多い一年となりますことを心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とします。



# 謹賀新年

2012年 元旦

## 北海道医師会

会 長	長 瀬 清	常任理事	前 川 勲	理 事	堀 修 司
副 会 長	三 宅 直 樹	"	水 谷 匡 宏	"	杉 元 紘 一
"	宮 本 慎 一	"	山 科 賢 児	"	飯 塚 一
"	畑 俊 一	"	岡 部 實 裕	監 事	水 元 修 治
常任理事	北 野 明 宣	"	伊 藤 利 道	"	中 村 興 治
"	渡 邊 直 樹	理 事	山 光 進	"	大 口 正 樹
"	三 戸 和 昭	"	島 田 道 朗	参 与	中 川 俊 男
"	小 山 司	"	伊 藤 丈 雄	代 議 員 会 長	塩 野 恒 夫
"	目 黒 順 一	"	津 田 哲 哉	代 議 員 会 長 副 議 長	本 間 哲
"	藤 井 美 穂	"	沖 一 郎	事 務 局 長	島 影 哲 児
"	深 澤 雅 則	"	倉 増 秀 昭		他 職 員 一 同
"	直 江 寿 一 郎	"	山 下 裕 久		
"	橋 本 洋 一	"	古 屋 聖 児		

# 謹賀新年

2012年 元旦

## 北海道医師国民健康保険組合

理 事 長	赤 倉 昌 巳	理 事	中 村 興 治	組 合 会 長	山 本 秀 樹
副 理 事 長	長 瀬 清	"	城 守	組 合 会 長 副 議 長	佐 藤 信 清
常 務 理 事	畑 俊 一	"	松 家 治 道	事 務 局 長	本 田 明
"	堀 江 洋 三	監 事	津 田 哲 哉		他 職 員 一 同
理 事	増 田 一 雄	"	上 西 仁		
"	上 埜 光 紀	参 与	千 秋 亨		